

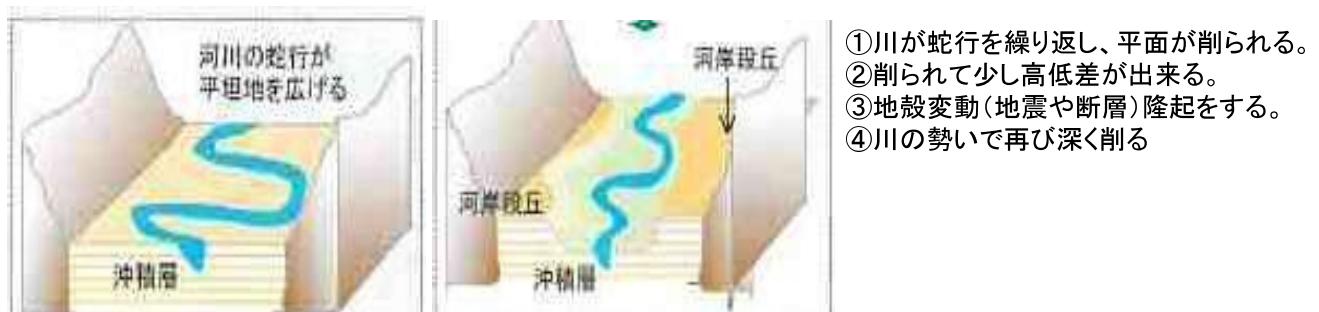
# ジオツーリズムがつなげる自然と水の恵み

## 「皆瀬川河岸段丘と農業用水路(堰)・湧水」

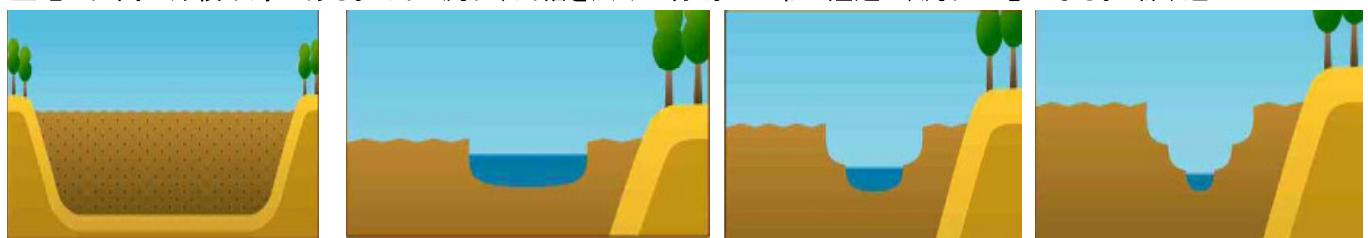
ゆざわジオパークガイドの会

藤木忠良

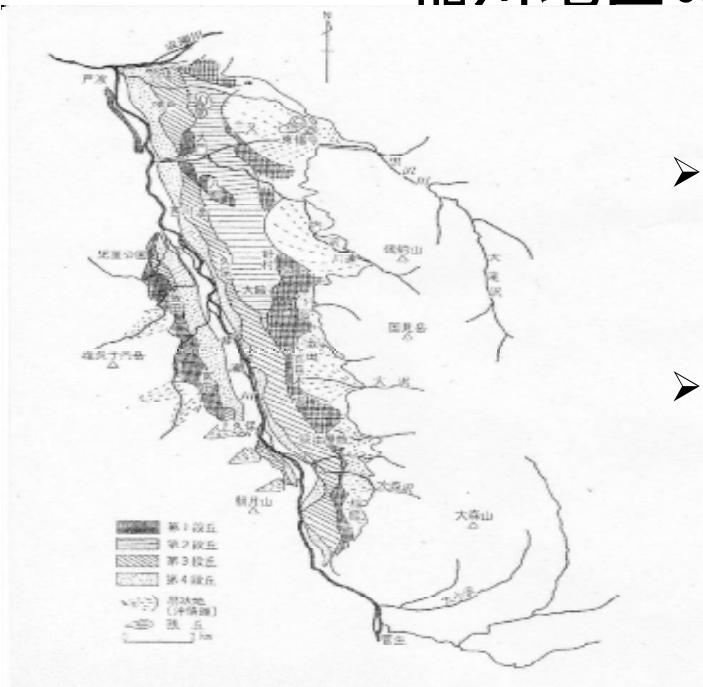
### 河岸段丘の出来方を考える



盆地で山間に沖積平野がある。川が流れ、川幅を広げて行く。一帯が隆起し、流れが急になる。繰り返し



## 稻川地区の河岸段丘



### 地図から見た様子

- 皆瀬川を挟んで右側には4段の段丘が見られるが、左側の地区には一番古い段丘と一番新しい段丘しか見られない。
- 西側は皆瀬川によって削られた可能性があるのでは？

## 菅生橋の上流と下流の様子

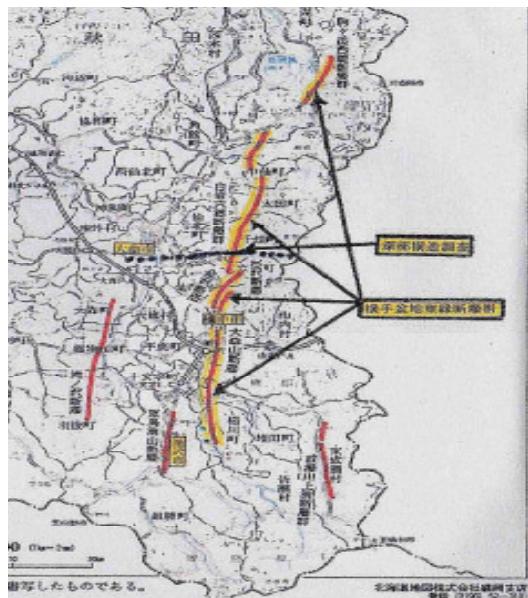


秋田県指定有形文化財(建造物)  
昭和6年(1931)建造  
長さ43.7m・幅5.1m・鋼鉄製



川幅が一気に広がつて  
いる様子が見える

## 横手盆地東縁断層帯の存在



- 皆瀬川東方山地の西縁部を南北に通る西落ち大森山断層は、横手盆地東縁断層帯の一部で、仙北市田沢湖高野付近から約60kmにわたって延びる断層帯である。
- 駒ヶ岳西麓断層群
- 白岩六郷断層群(千屋断層)
- 金沢断層群(杉沢断層含む)

## 東側の山の三角末端面

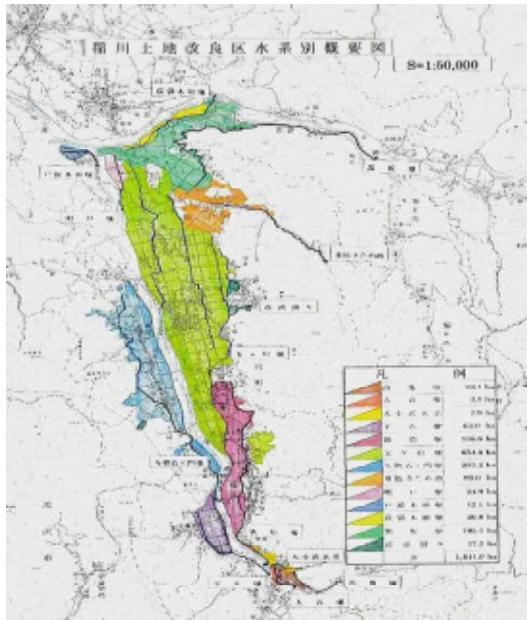


広域消防稻川分署前から国見岳を望む



稲庭頭首工から大森山を望む

## 五ヶ村堰、新処堰の歴史(一部)



- 五ヶ村堰はこの地区最大の灌漑面積の農業用水路で、内川・川連堰とも言われ、いつ頃出来たか定かではないが、大永五年(1525年)に十一代稻庭城主小野寺上野守道俊(のち晴道)が、川連堰の竣工を記念して三熊野神社に懸仏を奉納したものだと言われている。
- 川連堰が親郷で稻庭、三梨、川連、大館、八面で管理していたが、元禄期に三又も参画し「六ヶ村堰」と称すべきだが、以前の慣行に従って五ヶ村堰と呼んでいる。
- 大館の東側一帯を「浜町」と呼んでいた所がある。川連漆器木地の形木を皆瀬川に流し、五ヶ村堰を使い「大館浜」で引揚げた。この場所は、川連漆器用材集積場としての名残の名称である。
- 新処堰は延宝二年(1674年)堰口を稻庭早坂下の馬坂に設け開削。明治三十年(1897年)取水口を新処に移している。また、大正期に水力発電所を開設している。

## 五ヶ村堰頭首工と河岸段丘



稻庭頭首工



堤防道路から見た河岸段丘(第1・第3段丘面)

## 三熊野神社に奉納された懸仏

### 懸仏(レプリカ)



- 「阿彌陀如來像」(稻庭:小沢)
- 「藥師如來像」(稻庭:鍛冶屋敷)
- 「千手觀音像」(皆瀬:白沢)
- 懸仏三体のレプリカは、稻庭城と県立博物館にも常設展示しています。
- この懸仏は、昭和三十年に県指定有形文化財になっています。

### 川連漆器産業の発達に寄与した「五ヶ村堰」



昭和初期の大館浜の様子



現在の大館浜の様子

# 新処堰の多目的利用

流雪溝の為の水量調整水門



排雪用にも利用している水門



動力制御盤



## 稻庭地区の主な湧水



- 大清水(本町)
- 樋清水(三嶋)
- 大和清水(新町)
- 閑居清水(小沢)
- 雷清水(岩城)
- 大隅清水(猿城)
- 冷泉清水(万田平)
- 谷地の清水(禁)
- 長楽寺跡の清水(禁)
- ガンザ清水(早坂)
- 長太郎清水(小沢)
- 弥十郎清水(大谷)

## 扇状地の畑作と伏流水のコラボ



- 稲庭うどんは、江戸時代初期に小沢の佐藤市兵衛が作り始め、その後佐藤(稻庭)吉左衛門によって技術が受け継がれ、研究と改良が加えられ名声を得た。
- うどんの原材料である小麦は、沖積扇状地の畑作で作付された良質な小麦が産出したことと豊かな伏流水を利用し、特産品としての稻庭うどんが作られた。

## 地域振興としての新たな取組



昨年、この地区のお店さんが、『地産地消』をモットーのジオパーク弁当を発売しました。

旬の食材を使いオリジナルメニューでジオサイトを表現、掛紙の裏はジオサイトのmapと見所・プチ情報を記載。

# ゆざわジオパークのキャッチコピー

いにしえの火山の恵み  
あつき雪  
いかして築く歴史と暮らし

## ジオガイドとしての日常活動の取組

岩石の堅さを確かめる



質問しながらの説明



岩石の様子を見る



イラストを使った説明



大噴湯での集合写真



稻庭城での集合写真



- 地熱、水、鉱山、歴史、文化などの説明する時に器具やイラスト、質問するなど、五感を使う事を心掛けてガイドをする。
- この地域の多くの先人達が、苦労して築いてくれた堰、湧水を如何に大切に思い利用して来たのか。
- この大切な水を環境汚染に晒すことなく未来に繋ぐ必要があること。
- 私たちの役割として、地域の人や子供たちに歴史、文化について伝えていくことが重要であること。